

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	九州産業大学	個人・グループ名	浦津 翔平	作品名	たてものがかり
-----	--------	----------	-------	-----	---------

□目的

情報化が加速する現代社会の中で子どものものづくりの場が減少している。そこで、ものづくりの楽しさを知ってもらべく、福岡市立野芥小学校と連携し必修クラブ「たてものがかり」と活動に取り組んだ。製作場所は小学校内の使われていない森である。この森に木製のベンチ、脚立、アーチを製作・設置し森の活性化を図る。

□作品



〈ベンチ〉

加工しやすく経済的なツーバイ材とワンバイ材を使用し、ベンチを3台施工した。座高は小学校の椅子の平均である320mmに合わせるとともに、脚部分を二重にすることで安定感を持たせた。児童は、キリで下穴をあけ、ボンドを塗り、スクリュー釘で接合する作業を行った。さらにヤスリで材料表面を磨き、ペンキで着色した。ベンチは遊び疲れた時や、森の中での読書の時などに使用する。夏は木陰で涼み、冬は日向で暖まるよう設置した。



〈脚立〉

ツーバイ材とワンバイ材を使い、脚立3台施工した。蹴上は約300mmで4段ある。また木材を二重にして強度を持たせた。児童はドライバードリルで下穴をあけ、ボンドを塗りコーススレッドで接合した。また蝶番とあおり止めをつけ、折りたたみ式にした。アーチ製作時に使用し、その後は小学校で使ってもらおう。



〈アーチ〉

45×90×2500の杉材を使用し、接合は75mmと120mmのコーススレッドを使い分ける。それぞれの材で支えあう構造とし安定させた。児童はドライバードリルで下穴をあけ、ボンドを塗りコーススレッドで接合した(写真11)。こうして根・枝・葉をデザインモチーフとしたアーチを3台施工した。森のオブジェとして、鬼ごっこやかくれんぼなど遊びの場として利用する。転倒防止のため地面とは杭で固定する。



〈製作過程〉

難しい接合方法はせず、すべて面接合とした。木材同士がずれないようにボンド・万力で仮止めした後、釘・ビスで接合した。

ノコギリで切断する際には「マイターボックス」という木材を正確に切断できる補助具を利用した。

□製作を終えて

クラブの児童は普段作ることもないものを作り、良い思い出になったと思う。製作・設置後さっそく様子を見に来て利用する児童がいたので、これからも継続して利用してほしい。作ったものが小学校に残り、みんなに使ってもらおうという貴重な体験を通して、ものづくりの楽しさ、素晴らしさをわかってもらえたと思う。